授業科目　構音障害演習

【担当教員名】	対象学年	3	対象学科	言語
湧井　豊、磯野信策、渋谷直樹	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【概要】

「構音障害Ⅰ(機能)、Ⅱ(器質)、Ⅲ(運動)」で学んだ基礎知識を基にして、検査と診断、治療の技法を身につける。

具体的には、構音障害患者の録音・録画教材を用いて模擬的に構音検査を実施し、記録・評価表の作成、情報収集、診断・指導訓練プログラム立案の過程を学修する。立案した指導プログラムに従い、実際に訓練教具を操作しながら学生どうしで模擬訓練を行うことを通して指導の実際を修得する。

【学習目標】

1．構音障害治療の全体の流れを把握する
2．構音検査法、情報収集の方法、診断、評価法演習
3．訓練・指導プログラムの立案
4．訓練・指導法の実際

回数	授業計画又は学習の主題		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員	
1,2	構音障害の治療の流れ	初診から終了までの過程	1	講義	湧井
	構音検査法	構音検査の目的、種類、方法	2		
		構音の表記法	2		
	情報の収集	診断と治療に必要な情報とその収集方法	2		
3	診断法	構音障害を正しく診断し治療プログラムを作成するための方法を知り、実行できる。	2,3	講義と演習	湧井
4	訓練・指導法（1）	小児の構音障害における「耳の訓練」の技法を修得し実施できる。	4	講義と演習	磯野
5	訓練・指導法（2）	各音韻の構音誘導方法を修得し実施できる。	4	講義と演習	磯野
6	訓練・指導法（3）	運動性構音障害の評価方法を修得し実施できる。	2,3	講義と演習	渋谷
7	訓練・指導法（4）	運動性構音障害の訓練方法を修得し実施できる。	4	講義と演習	渋谷

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他
教科書	機能性構音障害	本間慎治編著	建帛社	2000年・２４００円
	言語聴覚士のための運動障害性構音障害	廣瀬肇他著	医歯薬出版	2001年・５０００円
参考書	構音障害の指導技法	湧井　豊	学苑社	1992年・３５００円
	ｼﾘｰｽﾞ言語臨床事例集第１巻口蓋裂	岡崎恵子他編	学苑社	1999年・４２００円
その他の資料	随時プリントを配布する。			

【評価方法】

出席、レポート、試験などを総合して判定する。

【履修上の留意点】

２年次の「構音障害Ⅰ」と「構音障害Ⅱ」、３年次の「構音障害Ⅲ」を履修済みであること。